



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年1月31日

上場会社名 株式会社 赤阪鐵工所 上場取引所 東  
 コード番号 6022 URL http://www.akasaka-diesel.jp  
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名) 赤坂 治恒  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役執行役員総務本部長 (氏名) 塚本 義之 (TEL) 054 (685) 6081  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	7,527	17.4	178	△45.7	246	△31.3	177	△30.0
29年3月期第3四半期	6,409	△1.1	328	1.5	358	3.9	253	△0.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	116 20	— —
29年3月期第3四半期	165 85	— —

(注) 当社は、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施しております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	13,659	8,604	63.0
29年3月期	12,380	8,307	67.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 8,604百万円 29年3月期 8,307百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	— —	— —	— —	2 00	2 00
30年3月期	— —	— —	— —		
30年3月期(予想)				20 00	20 00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合で株式併合を実施しております。平成30年3月期(予想)の期末配当金につきましては、株式併合を考慮した金額を記載しております。株式併合を考慮しない場合の詳細につきましては、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,800	17.2	70	△76.1	120	△64.1	70	△70.0	45 77

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成30年3月期の通期業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しています。株式併合を考慮しない場合の詳細につきましては、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年3月期3Q	1,540,000株	29年3月期	1,540,000株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	11,186株	29年3月期	10,931株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年3月期3Q	1,528,987株	29年3月期3Q	1,529,380株

(注) 平成29年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式併合がおこなわれたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数、期中平均株式数を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の配当及び業績予想について)

当社は、平成29年6月29日開催の第119期定時株主総会において、株式併合について承認可決され、平成29年10月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を行っております。なお、株式併合考慮前に換算した平成30年3月期の配当予想及び業績予想は以下のとおりとなります。

1. 平成30年3月期の配当予想  
1株当たり配当金 期末 2円
2. 平成30年3月期の通期業績予想  
1株当たり当期純利益 通期 4円58銭

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
3. その他	6
生産、受注及び販売の状況	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢が底堅く推移し、海外経済の回復を背景とした輸出の伸びなどが景気回復を堅調に推移させております。

また、海外においては、米国の不安定な政策運営や北朝鮮情勢の緊迫化など、地政学リスクの要因は依然としてありますが、海外経済全体としては景気回復基調となっております。

海運業界は、好調な米国経済、減速していた中国経済の持ち直しなど世界的な景気の拡大を受け、回復の兆しが現れ始めてきました。しかし、海運市況が本格的に回復するには、荷動き量の増加と老齢船・不採算船のスクラップが進むことで船腹過剰の状態から大幅に改善されることが必要になり、そのためには今しばらく時間がかかるものと思われます。造船業界につきましても、大幅な受注減から受注量はやや持ち直しに至ったものの、世界的な船腹量と造船供給力の過剰状態は依然として解消されておらず、業況の改善までにはなお時間を要するものと見込まれております。

このような状況下、当社といたしましては、主機関、部分品及び修理工事等の売上は前第3四半期累計期間を上回り、当第3四半期累計期間は、売上高7,527百万円（前年同期比17.4%増）となりましたが、原材料価格の上昇や環境規制対応の研究開発費の増加等による経費の上昇によって経常利益246百万円（前年同期比31.3%減）、四半期純利益177百万円（前年同期比30.0%減）と利益面では厳しい結果となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期末の総資産は13,659百万円となり、前事業年度末に比べ1,278百万円増加いたしました。主な増加要因は、売上債権の増加（1,095百万円）や投資有価証券の時価上昇による投資その他の資産の増加（348百万円）等によるものです。また、主な減少要因は、減価償却等による有形固定資産の減少（176百万円）等によるものです。

当第3四半期末の負債は5,055百万円となり、前事業年度末に比べ981百万円増加いたしました。主な増加要因は、第4四半期以降に出荷する製品向け等の部品購入に伴う仕入債務の増加（385百万円）や主機関の前受金の増加（698百万円）等によるものです。また、主な減少要因は、借入金の返済（145百万円）等によるものです。

当第3四半期末の純資産は8,604百万円となり、前事業年度末に比べ297百万円増加いたしました。主な増加要因は、四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加（147百万円）やその他有価証券評価差額金の増加（153百万円）等によるものです。

この結果、当第3四半期末における自己資本比率は63.0%となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月15日に発表いたしました通期業績予想の数値から変更はありません。また、配当予想につきましては、平成29年6月29日に発表いたしました株式併合に伴う配当予想の修正の数値から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,400,747	2,428,946
受取手形及び売掛金	2,248,787	3,344,558
製品	-	100,300
仕掛品	2,816,435	2,815,682
原材料及び貯蔵品	424,227	417,560
その他	254,173	139,157
貸倒引当金	△223	△331
流動資産合計	8,144,148	9,245,874
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,468,969	1,405,068
その他(純額)	1,353,600	1,240,739
有形固定資産合計	2,822,570	2,645,808
無形固定資産		
	60,734	65,879
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,373,104	1,721,285
貸倒引当金	△19,921	△19,421
投資その他の資産合計	1,353,182	1,701,863
固定資産合計	4,236,488	4,413,551
資産合計	12,380,636	13,659,426

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,017,927	2,403,254
短期借入金	414,244	321,770
未払法人税等	62,484	29,057
引当金	176,019	133,569
その他	864,090	1,495,863
流動負債合計	3,534,765	4,383,515
固定負債		
社債	-	100,000
長期借入金	82,394	61,492
退職給付引当金	46,637	37,593
役員退職慰労引当金	164,328	170,391
その他	245,203	302,074
固定負債合計	538,563	671,550
負債合計	4,073,329	5,055,066
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,510,000	1,510,000
資本剰余金	926,345	926,345
利益剰余金	5,657,310	5,804,395
自己株式	△32,627	△33,116
株主資本合計	8,061,029	8,207,624
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	246,278	399,600
繰延ヘッジ損益	-	△2,864
評価・換算差額等合計	246,278	396,735
純資産合計	8,307,307	8,604,359
負債純資産合計	12,380,636	13,659,426

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	6,409,546	7,527,686
売上原価	4,969,653	6,113,208
売上総利益	1,439,893	1,414,478
販売費及び一般管理費	1,111,495	1,236,196
営業利益	328,397	178,281
営業外収益		
受取利息	564	183
受取配当金	22,199	24,115
スクラップ売却益	11,766	20,290
受取保険金	3,628	17,581
その他	9,948	15,793
営業外収益合計	48,106	77,963
営業外費用		
支払利息	12,015	5,863
社債発行費	-	2,259
その他	6,155	1,809
営業外費用合計	18,170	9,931
経常利益	358,334	246,313
特別損失		
投資有価証券評価損	2,232	-
特別損失合計	2,232	-
税引前四半期純利益	356,102	246,313
法人税等	102,450	68,647
四半期純利益	253,652	177,666

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。見積実効税率を用いて税金を計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用しております。

## 3. その他

生産、受注及び販売の状況

当社の事業は船用内燃機関及び部分品の設計・製造・修理・販売及びその関連事業を主体とした単一セグメントであります。

## ①生産実績

当第3四半期累計期間の生産実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
内燃機関関連事業	7,627,986	19.0

(注) 1. 金額は、販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ②受注実績

当第3四半期累計期間の受注実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
内燃機関関連事業	7,876,018	7.3	5,211,532	10.8

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## ③販売実績

当第3四半期累計期間の販売実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
内燃機関関連事業	7,527,686	17.4

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。